

# 芳養公民館だより

未来へつながる道  
JUNCTION TO THE FUTURE 田辺市

平成29年4月号 No. 403

発行：芳養公民館 館長：泉 京子 主事：野口 直希

住所：田辺市芳養松原一丁目15-8

TEL：22-1429 FAX：23-1909



## 第11回 芳養川グラウンドゴルフ大会 参加者募集!

芳養谷（芳養・中芳養・上芳養）の交流大会として、下記内容のとおり、第11回芳養川グラウンドゴルフ大会を開催します。

ルールも簡単で、初めての方でも楽しめますので、大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

【部門】男女混合の部

【日時】平成29年5月14日（日）

※雨天等により延期の場合5月21日（日）

○受付 午前8時30分

○開会式 午前8時45分

○競技開始 午前9時

【場所】上芳養小学校グラウンド

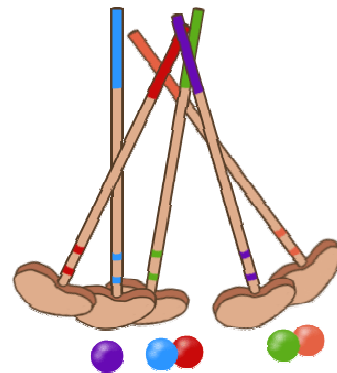
【参加資格】芳養谷地区在住者で、1チーム4人で申し込んでください。

【参加申込】5月10日（水）までに必要事項（チーム名・代表者氏名・代表者連絡先・選手名）をご記入の上、芳養公民館または、上芳養公民館までお申込みください。

※申込用紙は、芳養公民館・上芳養公民館にあります。様式は問いませんので、他の用紙に記入しても結構です。雨天中止・延期等は代表者に連絡しますので、代表者はメンバーへの連絡をお願いします。（午前7時に決定）

【問合せ先】芳養公民館 TEL：22-1429 FAX：23-1909

上芳養公民館 TEL：37-0001 FAX：37-0943



## 芳養イキイキクラブ集会場より《午後1時30分開会》

3日（月）童謡を歌う会（芳養公民館）

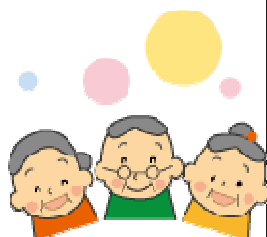
10日（月）縫い物（刺し子、ネクタイを活用して小物づくり、ぞうきんなど）

20日（木）食のお話（ホットプレートで料理）、やすらぎ対策課より

28日（金）体操、カラオケ、折り紙等

※土、日、祝日等は避けます。

※中本様よりご芳志を頂きました。有意義に使わせていただきます。



## 第16回 芳養しおさいまつりを開催します!

今年も、芳養新漁港で「芳養しおさいまつり」が実施されます。軽トラック市では約30店舗が出店し、物販や生シラス・野菜などの食料品を販売します。また、以下のイベントも楽しんで下さい。

皆様、ご近所お誘い合わせの上ぜひご参加ください。

【日時】平成29年4月15日（土）  
午前8時～12時 ※荒天中止

【会場】新芳養漁港

【イベント予定】  
軽トラック市・・・8時～12時  
芳養湾クルーズによる漁船試乗体験・・・8時30分～11時30分  
（最終便の出発は、10時50分です。）  
キャスティングゲーム・・・8時～12時  
しおさい横丁・・・8時～12時  
芳養保育所児童による演奏・・・10時  
南ステソーラン団による「よさこい踊り」・・・10時20分  
明洋中学校吹奏楽部による演奏・・・11時



昨年の写真

## 芳養小学校3年生 清掃活動!

3月14日（火）、芳養小学校の3年生が授業の一環として、芳養地域各所の清掃活動を実施し、芳養公民館にも掃除をしに来てくれました。

常日頃から学校でも一生懸命取り組んでいるようで、真剣に掃除をしている姿を見せて頂きました。とてもきれいになりました。3年生の皆さん本当にありがとうございました。



田辺市選挙管理委員会・田辺市明るい選挙推進協議会

**4月23日（日）は田辺市長選挙及び田辺市議会議員一般選挙の投票日**  
スローガン「**田辺市の未来へつながる あなたの一票**」

任期満了に伴う田辺市長選挙及び田辺市議会議員一般選挙は4月16日（日）に告示、4月23日（日）に投票が行われます。私たちの代表者たる市長と私たちの声を市政に反映させる市議会議員を選ぶ大切な選挙です。棄権したり無効票を投じることなく、有意義な一票を投じましょう。

●期日前投票と不在者投票

選挙期日に投票できない見込みの人は、期日前投票制度等をご利用ください。

○期間 4月17日（月）から4月22日（土）までの6日間

※その他詳細につきましては、広報田辺4月号をご参照ください。

お問い合わせは、田辺市選挙管理委員会又は各行政局総務課まで

（直通☎26-9945、市役所代表☎22-5300 内線3351、3352）

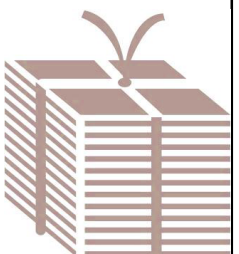
## 4月の古紙回収日【毎月第1・3火曜日】

**4月4日（火）・18日（火）**

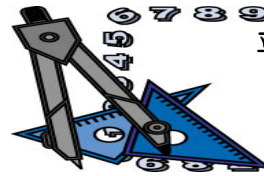
◎雑誌、新聞は、必ず紙ヒモでくくって出して下さい。

ダンボールは、大きいものはそのまま、小さいものは袋に入れて出してください。

**※回収日以外は、回収できませんので出さないで下さい。**



# 芳 養 小 学 校



平成29年度 田辺市立芳養小学校

第12号

・ ・ 和

文責 小山 敏幸

TEL 22-1422

## こちら校長室！

春3月。白やピンクの花をほころばせて野や丘を染め、家々の雛壇にも彩りを添える桃。原産地は、中国の黄河上流域で、中国では古くから霊木として崇められてきているそうです。日本では、桃が鬼や悪霊などをはらうという信仰が、桃太郎伝説の起源となっています。

さて、本年度も残り僅かとなって参りました。この1年間、とりわけ地域の皆様方には子供達の健全育成に関わって大変お世話になりました。ここに衷心よりお礼申し上げます。尚、来る23日の卒業式では63名が巣立ち、4月10日の入学式では46名の新入児を迎えます。今後ともよきお導きをお願い致します。

## ちよつといい話⑩

「時代は変わった。なのに古い人たちが旧来の手法で物事に当たっている。この国はなまじ古いルールでうまくいってしまったがために、古い人たちが変われないという状況に陥っている。早くゲームのルールや競争のルールが変わったということに気づかなければいけないんです。物事には何でも『賞味期限』があるからです。」

こう語っていたのは、明石家さんまや島田紳助など、大物お笑いタレントを世に輩出している吉本興業の元常務取締役・木村政雄さん。この「常識は賞味期限付きの価値観だ」という発想は面白かった。「常識」というのは世の中の規範のように考えられるが、決して普遍的なものではない。その時代その時代の為政者や有識者、マスコミ、あるいは大衆が作り出しているものに過ぎない。だから賞味期限である。

木村さんが言うには、人の賞味期限は、新しいことに戦しようとする意欲がなくなる時だそうだ。「それは俺がやることではない」「前例がないからできない」「うちの社風になじまない」、そんなことを言い出したら、その人はそろそろ賞味期限が来ているなあと思ってい。

吉本興業に島田紳助というタレントがいた。80年代の漫オブームに乗って「紳助・竜介」というコンビで売れていた。ところが、漫オブームも下火になり、「ツッパリ」を売りにしていた島田紳助にも賞味期限が来ていた。その頃、大阪・毎日放送から吉本興業に『サンデー・プロジェクト』の司会の仕事が舞い込んできた。テレビ局側は、桂三枝か桂文珍を指名してきたが、木村さんはその仕事を島田紳助にぶつけた。『サンデー・プロジェクト』は、政治経済や社会問題に焦点を当て、評論家や学者が討論する番組。番組開始直前になって島田紳助は大阪から失踪した。東京のマンションに引きこもってしまい、「自信がない。出来ません」と言ってきた。木村さんは説得した。「誰もお前が立派なことを言うなんて期待してない。視聴者と同じ目線で語ったらいいいんだ。」番組が始まって15年。島田紳助はすっかり知性派のお笑いタレントとしてその地位を不動のものにしていた。「リスクはあったが今までとは違うスキルを開発したことで彼の賞味期限が延びた。」と木村さんは言う。

組織にも賞味期限があるそうだ。一時期、吉本新喜劇の観客数が減り始めたことがあった。木村さん自身が客席から観てみると、確かに面白くない。長年やっているベテランと若手の間に階層ができ、新しいことをやろうとする若手に対して、ベテランがそれを認めず、自分のやりやすい芝居にしていた。木村さんは一旦劇団員を全員解雇した。そして一人ひとりに、「これからはベテランも若手もない。ベテランでも『通行人A』になることもある。それでもやるか?」と聞いていった。「それでもやります。芝居が好きなんです。」と言ったチャーリー浜・池乃めだか・桑原和男という現在の吉本新喜劇を支えている役者たちが残った。後に藤井隆や山田花子といった異色のスターが生まれる土壌ができたのもこの時の改革にある。

「組織の中ではベテランの能力が、ある日突然陳腐化していくという現象が起こる。だから『今まで何をやったか』ではなく『これから何がやれるか』ということでの価値が量れる時代なんです。」

お笑い番組を観て笑っているだけの人間と、「お笑い」を創り出す人とは、こんなにも違うものなのかと、唖った。

【出典：日本一心を揺るがす新聞の社説2 水谷もりひと著】

# 大 坊 小 学 校



## 3名の六生 巣立つ

3月23日、第47回大坊小学校卒業証書授与式で、3名の六年生が巣立ちました。来賓の皆様にも多数ご出席頂きありがとうございました。今回の卒業式は、現存の講堂で行う最後の卒業式でした。「古いけれども美しい校舎」と言ってもらえるようにしようと、卒業した3名も一生懸命掃除をしていました。古き良き時代のぬくもりが感じられる校舎で学んだことを覚えておいてくれるとうれしいです。

立派に成長した3人を送り出すことができましたのも、保護者、地域の皆様のお陰と心より感謝しております。中学校への通学には、大坊の坂道を自転車で下って行きます。今後とも温かく見守って頂けますようお願いいたします。

## 卒業制作「なわとび練習台」

6年生が先生の指導の元、下級生のために「なわとび練習台」を作ってくれました。この台の中央で跳ぶと、板の反発力で高く跳びあがれます。二重跳びのできない子もこれで練習すれば、きっと成果が出るはず。

全員、二重跳びができるようになるのが卒業生の願いです。



## ・・・卒業式 式辞より・・・

この六年間、三人はそれぞれに個性を発揮し、大きく成長しました。今、巣立ちゆく三人に最後に二つの事をお話しします。

一つ目は「言葉が人をつくる。」ということです。あなたの口から発する言葉、その言葉で人となりは作られていくと私は思っています。だから、返事は「はい。」とはっきり言ってほしいし、しっかり挨拶をしてほしいのです。気のない返事は語りかけてくれた人に失礼です。やる気のない言葉を出していると、本当にやる気はでません。すべてが、投げやりで、元気のない人になってしまいます。「言葉は人をつくる。」だから、しっかりとした返事や気持ちよい挨拶ができる人になってほしいのです。

二つ目は、「努力はあなたを裏切らない。」ということです。以前、「めんどくさいと思うこと。それが今のあなたに大事なことなのです。」というお話をしたことがありますね。覚えていますか。実はこれと同じ事をスタジオジブリの宮崎駿さんも言っておられます。アニメの作品を仕上げる時、朝から晩まで書き続ける中で、「面倒くさいっていう自分の気持ちとの戦いなんだよ。世の中の大事な事って、たいてい面倒くさいんだよ。」と自分に言い聞かせているそうです。辞書を引くことだって、鉛筆を削ることだって、明日の準備をすることだって、面倒くさいですよ。でも、そのこつこつと積み上げていくことが大事なんです。努力したことは決してあなたを裏切りません。だからこつこつと努力してほしいのです。

平成29

日時4月10日(月)

10時30分 式

新1年生は、男子3名です。元気いっぱいの子を迎え、全校児童18名でスタートします。



4月から校舎建築工事が始まります。近隣の皆様にはご迷惑をおかけしますがよろしくお願いします。

# 明 洋 中 学 校

## 明洋中学校から

平成28年度をふり返ると、生徒たちは大会やコンクールなど様々な活動において活躍をした一年ではなかったかと思えます。

夏の総合体育大会においては、例年以上に運動部が活躍し、県大会、近畿大会、全国大会へ、数多くのクラブが出場し、体操部においては、3度目となる全国大会「準優勝」を勝ち取りました。

文化部においては、吹奏楽部が地区予選を勝ち抜き、県大会、関西大会に出場、美術部も様々なポスター、絵画コンクールにおいて団体、県、文部科学大臣賞などに入賞しました。

また、体育大会、文化発表会などの行事では、校訓「自主、自律、連帯」を合言葉に、生徒各自が自分の役割を押さえ、率先しまわりの友だちと協力して一つの目標に向かって取り組み、行事を成功させました。

この一年間、地域の皆さま方におかれましては、生徒たちの活動を温かく見守っていただき、ご支援ご協力頂きましたこと厚くお礼を申し上げます。

## ◇第68回卒業式を挙行了しました

去る3月7日、本校、第68回卒業式を挙行し、男子62名、女子46名、計108名が希望を胸に力強く巣立っていきました。

明洋中学校で学んだことを活かし、さらに新しい世界でもより一層、ご活躍をすることを祈っています。

## 卒業おめでとう！～志を持とう～〈式辞から抜粋〉

草木の芽の膨らみとともに、躍動の季節、春の訪れを告げる気配が漂ってきました。

今日のおよき日に本校を巣立っていく、108名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今、皆さんが手にした卒業証書は、小学校、中学校あわせて九年間の義務教育を修了した証でもあります。

同時に、皆さんの三年間のたゆまない努力はもちろんですが、明洋中学校の先生方の願い、そして保護者、地域の方々の熱い期待も込められています。皆さんは、この一枚の卒業証書の重みをしっかり受け止めて欲しいと思います。

さて、これから皆さんは人生初めての岐路に差し加かろうとしています。

皆さんは自分が将来したいことや自分の適性など、様々なことを悩み考え、家族や友だち、先生方と相談し、自分の進む道を選択しました。そして、新たに第一歩を進もうとしています。

現在、世界を取り巻く情勢の変化や技術革新で、世の中が急激かつ大きな変化の時代が来ています。

日本もこの大きなうねりに影響され、先々のことが不透明で不確かな時代になってきたと言われています。

そのような中、これから、皆さんが進む道はどの道も変化に満ちた、険しい道のりになることが予想されます。

しかし、しっかりと「志」を持ち自分の選択した道を力強く突き進んで欲しいと思います。

皆さんも知っている、高村光太郎の「道程」という詩があります。

この詩には「僕の前に道はない」「僕の後ろに道は出来る」という一節がありますが、「道」つまり、「人生」は自らの手で切り拓いていくという、強い意志の表れがこの詩の中に込められています。

今後、皆さんがさらに大人に近づくため、様々な困難にあっても自ら考え、自ら判断し、自らの手で切り拓き歩んでいく姿勢を貫いてください。

そして、失敗や成功などたくさんの経験を積み重ね、獲得した知識や技術を基に、さらに自分の進む道を切り拓き、その結果、自分の進んだ後には、しっかりと道がつくられている、そんな道のりにして欲しいと思います。

単なる「願い」から「志」にかえられるかどうかは、その人の強い決意とその後、努力をするか、しないかの差になります。

皆さんが努力をやめてしまうのか、努力を続けていくのか、その先の道のりは大きくかわってきます。

皆さんが秘めている様々な可能性を探すためにも、「志」を持ち、夢や目標に向かって挑戦して欲しいと思います。

力強く一歩一歩前進し、将来、社会人として第一線で活躍している皆さんの姿に出会うことを楽しみにしています。